



きらめき
マイタウン

しん ぐう まち
新宮町

美しい自然と
深い歴史に
育まれたまち



はなぐりせ
鼻栗瀬(めがね岩)

海水による浸食を受けてできた大きな穴が特徴の、高さ20メートル、周囲100メートルの岩。あいのしま相島の東の海上にあり、絶好の釣り場としても有名。平成18年に相島の鼻面半島はなづらとともに「県指定名勝」となっている



太閤水

かつて太閤・豊臣秀吉が九州平定の際、博多からの帰路に喉を潤したとされる井戸。同行した茶人・津田栄及が掘ったもので、秀吉にちなみ「太閤水」と呼ばれている



ひとまるの里

町内で採れる新鮮な野菜や果物、海産物の販売所で、午前中には大半の商品が売り切れてしまうほどの人気ぶり。相島直送の魚が販売される日はこいのぼりが上がる



沖田中央公園

JR新宮中央駅東口の目の前にある公園。人工のせせらぎや広々とした芝生の広場などがあり、水と緑を楽しめる空間に。町の新しいランドマークになっている



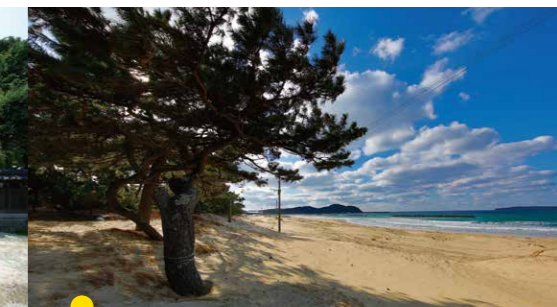
新宮町立歴史資料館(シーオーレ新宮内)

数多くの遺跡や史跡が残る新宮町。町立の歴史資料館には、これらの貴重な資料が展示されており、子どもから大人まで楽しく歴史を学ぶことができる



横大路家住宅(千年家)

国の重要文化財に指定。最澄が寄宿したお礼に「法理の火(唐から持ち帰った火)」などを授けたという伝説があり、火は1000年以上の間、住宅のかまどで守られていた



新宮海岸

弓なりに続く通称「パラソルのふち」と呼ばれる美しい砂浜と、「桶の松原」といわれる松林が特徴。松林は、文字通り防風・防砂の「桶」としての役割を担っている

新設中学校・防災活動拠点整備



完成イメージ

人口増加に伴い、新宮町2校目となる中学校を平成31年4月に開校します。現在、開校準備委員会で校歌・校章をはじめ、学校の運営について検討しているところです。また、災害時には防災活動拠点となる「新宮ふれあいの丘公園」を併せて整備中。普段は健康の維持増進のための運動施設として利用でき、住民の皆さんに親んでもらえる場所となるよう準備を進めています。

問い合わせ

新宮町役場
新宮町緑ヶ浜1-1-1
☎092-962-0231(代表)
ファクス092-962-2078
<http://www.town.shingu.fukuoka.jp>

多くの人が集い憩う心地よい場所

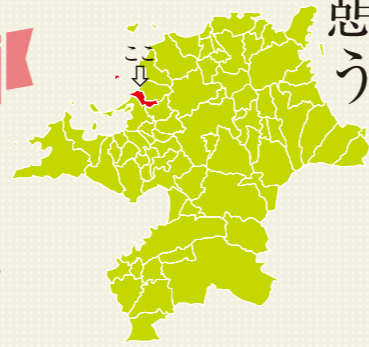
福岡市の中心部から車で約30分。交通の便が良く、多くの商業施設も立ち並ぶ新宮町は、新しいまちづくりも進むにぎやかなまち。その一方で、緩やかに弧を描く白砂青松の海岸や緑あふれる森林、ホタルがすむ小川など、自然豊かなまちという魅力も併せ持っています。

また、休日になると、「子どもでも楽しく登れる山」として親しまれる立花山や「猫の島」として話題の相島に、県内外はもちろん海外からも多くの観光客の姿が。そんな新宮町は、人々が集う憩いの場として注目を集めています。



ご当地キャラ紹介

新宮町マスコットキャラクター
ジロちゃん
新宮町の鳥、メジロのジロちゃん。大きな瞳の中には町章がキラリ。



相島積石塚群

墳丘が石で積み上げられている全国的にも珍しい古墳群で「国指定史跡」となっている。古墳の数は現在までに254基確認されており、最も大きい120号墳(写真)は全長20メートルほど



立花山大クス

近年、登山で人気の立花山。山頂付近には樹齢300年を超えるクスノキが約600本自生しており、「立花山クスノキ原始林」として国の特別天然記念物に指定されている



観音遷座祭

鐘や太鼓が鳴り響く音にちなみ「ドンドンカン」と呼ばれている相島の夏の祭り。神宮寺の観音様を山の観音堂に遷座する青年たちの伝統儀式



まつり新宮

毎年11月に開催される新宮町の魅力発信イベント。地元で採れたての野菜や海産物、加工品などがブースに数多く並ぶ。また、バラエティーに富んだステージパフォーマンスなども祭りを盛り上げている



新宮町のイチゴ

新宮町の特産品であるイチゴ。新宮小学校の3年生は、体験学習として1年間かけてイチゴを育てており、楽しくおいしく特産のイチゴについて学んでいる

布の絵本製作ボランティア ファンタジア

温かい手作り絵本を
子どもたちのために

22年前に発足した「ファンタジア」は、布の絵本を製作し図書館に寄贈するボランティア団体。9人のメンバーのうちリーダーである内山加代美さんを含む3人は発足当時から参加しており、寄贈した絵本は100冊を超えています。一針一針思いを込めて作られた絵本は、どれも布と手作りの温かみを感じられるものばかり。細かい仕掛けなどが施されたものも多いため、壊れてしまったり小さな部品がなくなったりすることも多いのですが、そのたびに修理をしながら大切に使われています。

絵本製作のほか、年に一度新宮町立図書館が開催し、メンバーが講師を務める「布の絵本の講座」も好評。「縫い物が苦手なお母さんが少しずつ上手になっていって、一緒に来た子どもが作品をうれしそうに持って帰る姿を見るとやりがいを感じます」と内山さん。「好きじゃないと続きませんよ」と笑顔で語ります。



1/左から3人目が内山さん。新宮町立図書館では、「ファンタジア」の作品の一部を閲覧することができる(貸し出しは団体での読み聞かせなどに使用する場合のみ) 2/小さな子や障がいのある子でも、触って遊べる楽しい仕掛けのある絵本やおもちゃがいっぱい 3/「じごくのそうべえ」(童心社)の手作り絵本は完成までに3年かかったという大作。生地や縫い方の工夫から生まれた立体感で、物語の迫力が増している

1
3 | 2

相島少年消防クラブ

相島の安全安心と未来を担う
頼もしい中学生たち

相島では、かつて、男性たちが漁に出ている間に火が上がり、女性と子どもだけでは消火活動を十分に行えず、島の大半が焼失する大火災がありました。これを教訓に、「自分たちの島は自分たちで守る」と立ち上がったのが、島の中学生たち。昭和23年に現在の「相島少年消防クラブ(通称BFC)」につながる防災活動を開始し、70年間受け継がれています。

主な活動は、島民の防災意識を高めるために行う週に4日の夜回り活動と、出初式や運動会でのポンプ操法のお披露目。夜回り活動は生徒たちだけによる自主活動で、「火の用心」の声出しや野焼きの火の後始末の確認などを行います。「ポンプ操法は難しく練習も大変。でも、小さい頃から見て憧れていた。集大成の運動会では、これまでで一番美しいポンプ操法を見せたい」と、中隊長の三船一瑛さんと小隊長の丸山京汰朗さん。伝統あるクラブの一員として、大切な故郷・相島の安全安心を守るため日々奮闘しています。



1/新宮中学校相島分校の全生徒が隊員となるBFC。現在は、引退した3年生を除く7人で活動している。平成28年には防災功労者内閣総理大臣表彰を受けた 2/地域防災活動の中でも、BFCのように生徒主体で行われているのはまれ。生徒たちは活動を通して、自主性や規律などを身につけ、大きく成長している 3/学校活動の一環として行っているポンプ操法。本土から招く消防士や地域の方による指導を受け、本格的に訓練を重ねている

1
3 | 2

相島ドリームワークス

春の風物詩「相島!春フェスタ」で
相島の魅力と元気を発信

今や相島を代表する毎年恒例のイベントとなった「相島!春フェスタ」。「島めぐりツアー」や「漁船クルージング」、「お魚つかみどりコーナー」などさまざまなイベントが行われ、島には町内外から約800人の観光客が訪れます。その企画・運営を行っているのが「相島ドリームワークス」です。入会の条件は「相島の活性化」を願う者であることのみ。そのため、平成25年の発足後、メンバーは自然と増え続けており、それぞれが自分の仕事や趣味、得意分野を生かして「春フェスタ」を盛り上げています。

「最近猫が注目されているけれど、それはやはりもの。猫ブームが終わっても人がたくさん来てくれて、島がもっと元気になるようなイベントをつくっていきたい」と代表の三船清和さん。「島が好きになってもらい、移住してくれる人も増えてくれれば」と願います。



1/「誰かのちょっとした思いつきが企画として実現することもある」と話す代表の三船さん(右から2番目)。個性あふれるメンバーが力を合わせて「春フェスタ」を盛り上げている 2/「お魚つかみどりコーナー」は毎年大人気。「もっと大きい!」、「その魚じゃなくて!」など、参加者の家族からの声援がおもしろいのだとか 3/「島めぐりツアー」では、相島の中学生たちが史跡や絶景スポットをガイド

1
3 | 2

Tachibana All Powers

竹林整備で伐採した竹を使って
ふるさとに灯を

町の東部にある三城岳は、かつてミカン栽培が盛んでした。しかし、後継者不足のためミカン畑が現在では竹やぶに。この状況を「何とかしたい」と地域の人たちが発足したのが「Tachibana All Powers(通称TAP)」です。竹を伐採して散策路を整備し、山頂に展望台を築く計画を進めています。「展望台造りは九州産業大学が協力してくれています。山頂までの道はまだまだ時間がかかりますが、完成したら観光客を呼び込みたい」と会長の堀田晴夫さん。過疎化が進む地域のために、活性化への糸口を探しています。

また、伐採した竹を有効利用するため、「竹灯籠まつり」を開催。昨年は、立花小学校の児童や近隣住民の協力も得て6000丁もの竹灯籠を作り、集落を温かな光でいっぱいになりました。今後は竹を粉砕して肥料にするなど、さらなる有効活用法を検討しています。



1/TAPのメンバーは20~70代までの25人。平成28年に結成され、竹灯籠まつりの認知度も少しずつ高まっている 2/「竹灯籠まつり」のほかにも、伐採した竹を利用して竹細工や流しそうめんなどを小学生たちと楽しんでいる 3/広場や神社の境内、道路の両側に…いろいろな場所に置かれる竹灯籠。さまざまなデザインが施されており、眺めているだけでも楽しい

1
3 | 2